

「疫病退散の願い」は時代によってどう表されてきたのか

**アーツ千代田 3331 特別企画展**  
**「疫病・たいさ〜ん！江戸の人々は病いとどう向き合ったか」**  
**開催のお知らせ**



このたび、アーツ千代田 3331 では「アーツ千代田 3331 特別企画展『疫病・たいさ〜ん！江戸の人々は病いとどう向き合ったか』」を開催いたします。

新型コロナウイルスが突如として人類に襲いかかった2020年、日本では江戸時代の妖怪アマビエが現代によみがえりました。厚生労働省もアマビエをモチーフにした啓発アイコンで感染症の拡大防止を呼びかけるなど、社会現象となりました。原因や治療法が定かではなかった江戸時代から高度医療社会となった現代に至るまで、たとえ危機の只中であっても、人間は笑いや楽しみを求め、「疫病退散」の願いをさまざまに表現してきました。

本展では、江戸庶民と神仏の関係や市中の出来事を示す記録、疫病流行から生まれたさまざまなイメージを通して、疫病が当時の生活や文化にもたらした影響、そして禍に立ち向かい、打ち勝とうとした江戸の人々の姿をご紹介します。そこには、現代の私たちが置かれている未曾有の事態を乗り越えるヒントがあるかもしれません。

本展をぜひ多くの方々にご覧頂きたく、何卒周知にご協力頂けますと幸いです。



厚生労働省による啓発アイコン

- 名称：アーツ千代田 3331 特別企画展「疫病・たいさ〜ん！江戸の人々は病いとどう向き合ったか」
- 会期：2021年4月17日（土）～5月16日（日）11:00 - 18:00 会期中無休
- 会場：アーツ千代田 3331 1階 104ほか（東京都千代田区外神田 6-11-14 旧練成中学校）
- 入場料：無料
- 主催：アーツ千代田 3331
- 後援：千代田区、一般社団法人千代田区観光協会、社会福祉法人千代田区社会福祉協議会
- 協力：神田明神、NPO 法人神田学会、株式会社吉徳
- 監修：木下直之（静岡県立美術館館長、神奈川大学特任教授）  
滝口正哉（立教大学特任准教授）

<https://kanda.3331.jp/2021/>

[ このプレスリリースに関するお問い合わせ先 ]

3331 Arts Chiyoda | アーツ千代田 3331

〒101-0021 東京都千代田区外神田 6 丁目 11-14 (旧練成中学校) TEL: 03-6803-2441 (代表) FAX: 03-6803-2442

E-MAIL: pr@3331.jp (担当: 岩垂、稲葉) URL: <https://www.3331.jp>

■監修者



木下直之（静岡県立美術館館長、神奈川大学国際日本学部 特任教授）  
1954年静岡県生まれ。専門は美術史・文化資源学。兵庫県立近代美術館、東京大学などを経て現職。美術、写真、博物館、見世物などを手がかりに19世紀の日本文化を研究。



滝口正哉（立教大学特任准教授）  
1973年生まれ。専門は日本近世史・博物館学・民俗学。博士（文学）。千代田区立日比谷図書文化館文化財調査指導員などを経て現職。2006年、第3回徳川奨励賞受賞（財団法人徳川記念財団）。2010年、第26回江馬賞受賞（日本風俗史学会）。

■展示内容

\* 実物資料と複製を交えて展示

テーマ① - アマビエ氾濫

新型コロナウイルスの拡大によって不安の広がった2020年。人々の心の拠り所として現れたのが、妖怪アマビエでした。1846年（弘化3）に肥後国（現在の熊本県）の海中に現れ、疫病流行の予言と回避法を伝えたといわれるアマビエは、時を経てキーホルダーやTシャツなどの「キャラクターグッズ」として日本中で流行し、日本政府からも感染拡大防止の啓発アイコンに採用されました。たとえ危機にあっても、人間は何かを拠り所に笑いや楽しみを求めるのかもしれない。本項ではアマビエのルーツとも言われる「<sup>アマビコ</sup>尼彦」の資料と合わせて現代のアマビエグッズをご紹介します。



『肥後国海中の怪（アマビエの図）』  
京都大学附属図書館所蔵



しもうらごらんで  
熊本県天草市 下浦土玩具  
「アマビエ」

▶ポイント：様々な形態となり現代に拡散するアマビエの姿

テーマ② - 願掛けとまじない、江戸の神仏

江戸時代にも、疱瘡や麻疹といった疫病の爆発的な流行はたびたび起こり、その禍を逃れるために人々が真っ先に行ったことが神仏への祈りでした。神社や特定の場所へ赴いて願掛けを行ったり、まじないとして疫病と戦う武将などが描かれた絵や人形を置き、護符を身の回りに貼るなど、人々は神仏の力を借りて疫病に立ち向かおうとしていたのです。



『願懸重宝記』（個人蔵）

▶ポイント：『願懸重宝記』\* をもとに作成した本展オリジナルの

「疫病退散 願掛けスポット MAP」（展示&ポケット版無料配布）

\* 江戸で願掛けに効果があるとされた神仏や、独特な願掛けの作法が記された書物。

テーマ③ - 暮らしの中の疫病退散

馬喰町にあった菓子屋「淡島屋」の名物・軽焼は、「病を軽くする」と疱瘡や麻疹の見舞い菓子として大変好まれ、紙袋には、達磨や鯛、金太郎や桃太郎などの縁起物が多色刷りで描かれていました。疫病流行の様子や、具体的な対処法などを速報で伝えるかわら版、霊獣ラクダやゾウの見世物など、パンデミックがもたらした身の回りの変化や市中の出来事についてご紹介します。

▶ポイント：日常の事物に反映された疫病退散への願い



疱瘡袋（軽焼せんべい袋）のうち  
（吉徳資料室 蔵）



千社札（連札）（個人蔵）

[ このプレスリリースに関するお問い合わせ先 ]

3331 Arts Chiyoda | アーツ千代田 3331

〒101-0021 東京都千代田区外神田 6 丁目 11-14 (旧練成中学校) TEL: 03-6803-2441 (代表) FAX: 03-6803-2442

E-MAIL: pr@3331.jp (担当: 岩垂、稲葉) URL: https://www.3331.jp



## ■展示内容

\*実物資料と複製を交えて展示

### テーマ④ – 疱瘡絵・麻疹絵、赤い世界

疫病退散の願いや回復への祈りは、絵や人形にも表されています。  
魔除けを表す「赤」を用いて、強さを象徴する鍾馭や達磨、金太郎や桃太郎、源為朝などを描いた「疱瘡絵」、病を軽くするまじないや、罹患した際の生活の心得などが書き添えられている「麻疹絵」、赤く塗られた人形など、疫病をきっかけに独自の力強い表現が生まれました。

#### ▶ポイント：魔除けの「赤」による力強い表現



疱瘡絵「鯛車」



麻疹絵「毒だてやうじやう」

(共に凸版印刷株式会社 印刷博物館蔵)

### テーマ⑤ – 麦殿大明神 呼び出しプロジェクト

麻疹と戦う麦殿大明神は、邪鬼（麻疹神）を踏みつけ、人々がそれを拝む姿で描かれました。麦には「はしか」と呼ばれる部分があるため、麻疹の免疫を持っていると受け止められ、信仰を集めました。江戸時代には藁袋を鎧に見立てた姿で描かれましたが、本展では籠細工で麦殿大明神をつくります。神田明神の境内には、籠職人が商売繁盛を願う籠祖神社があるなど、「籠」は江戸時代より人々の暮らしと共にあり、現代も身近な存在です。新型コロナウイルス感染症に見舞われた現代に「籠」の麦殿大明神を召喚し、過去から現在へ疫病退散の願いをつなぎます。さらに制作風景のメイキング映像も会場と本展の特設サイトで公開します。

#### ▶ポイント：本展独自制作の「麦殿大明神」が降臨！



麻疹絵「麦殿大明神」

(凸版印刷株式会社 印刷博物館蔵)



籠細工による「麦殿大明神」制作中の様子

### テーマ⑥ – 疫病退散と祭

そもそも祭は、厄除け・疫病退散のために執り行われていました。悪霊退治や魔除け、疱瘡除けの人形を飾り立てた山車を曳き回した神田祭もその役割を担っていました。  
疱瘡、麻疹、コレラなど疫病が度々流行した江戸時代、祭はどのように行われていたのでしょうか。斎藤月岑の日記などから、当時の祭の様子を紹介し、パンデミック渦中である現代の祭のあり方について考えます。

#### ▶ポイント：パンデミック渦中の記録から考えるアフターコロナの祭礼の在り方

### 近日公開！！関連イベント情報 & オンラインギャラリー

展示に関する最新情報や、監修者によるギャラリーツアーなどの関連イベントは随時特設サイトで公開いたします。  
また展示会場をWEB上で楽しみいただけるオンラインギャラリーも開設予定です。詳細は下記 URL よりご確認ください。

<https://kanda.3331.jp/2021/>

#### <3331 Arts Chiyoda の新型コロナウイルス感染予防対策について>

3331 Arts Chiyoda では、新型コロナウイルス感染予防対策を講じた上で、施設の運営ならびに展覧会・イベントを開催しております。ご来場の際には、アーツ千代田 3331 WEB サイト (<https://3331.jp>) より当館の感染症対策およびご来場時のお願いを必ずご確認ください。なお、状況により実施内容や時間等は変更になる場合がございます。3331 のウェブサイトや各種 SNS にて最新情報をご確認の上、ご来場ください。

[ このプレスリリースに関するお問い合わせ先 ]

3331 Arts Chiyoda | アーツ千代田 3331

〒101-0021 東京都千代田区外神田 6 丁目 11-14 (旧練成中学校) TEL: 03-6803-2441 (代表) FAX: 03-6803-2442

E-MAIL: [pr@3331.jp](mailto:pr@3331.jp) (担当: 岩垂、稲葉) URL: <https://www.3331.jp>